

県連情報

群馬県生活協同組合連合会

前橋市大手町 3-19-3

TEL 027 - 234 - 2376

9・10月号 (No 64)

2009年10月5日発行

「県連情報」はホームページでもご覧いただけます

<http://gunma.kenren-coop.jp/>

Eメール: mail@gunma.kenren-coop.jp

中央地連「新型インフルエンザ対応学習会」に参加 9月10日(木)

9月10日(木)、「新型インフルエンザ対応学習会」(中央地連主催)が四ツ谷のプラザエフで78名の参加のもと開催され、群馬県からは県庁生協、コープぐんま、利根保健生協、県連から5名が参加しました。

最初に、コープこうべ総務部井上正洋統括部長から、これまでの新型インフルエンザ対策の準備の取り組みと、この春(4~7月)に発生した際の対応の状況、秋以降に向けての課題等について報告がありました。

次に、丸の内総合法律事務所の中野明安弁護士による「新型インフルエンザと法的リスクマネジメント」と題した講演がありました。

事業者は、「労働者への安全配慮義務」が法的に求められる一方で「事業継続の社会的使命を果たす」ことが求められ、この二つの要件にバランスよく対応しながら、重要な業務を継続する事業継続計画の策定が重要だと指摘されました。また、「政府や自治体が事業者」に事業自粛を要請して、事業者がそれに応じた場合、事業者は新型インフルエンザに罹患していない労働者に休業補償の支払義務はあるか」「継続業務に従事してほしい社員が、感染リスクを理由に出社を拒否した場合、業務命令として出社を指示できるか」「勤務していた従業員が新型インフルエンザに感染した場合、会社は当該従業員に対して補償を行なう義務があるか」等々想定される事例について、法律に基づいた対応の考え方について解説をいただきました。最後に、秋以降に予想される流行への備えとして、企業に求められる対応のポイントについてお聞きしました。



中央地連が「機関運営責任者 担当者学習会」 9月15日(火)

9月15日(火)、中央地連主催の「機関運営責任者・担当者学習会」が東京都生協連会館(東京・中野)で開催されました。学習会には5都県連、22単協、2事業連合から計58名が参加しました。

今回の学習会は、生協法改正後初めての総代会に向けた1年間のサイクルを経験して、見えてきた課題・疑問・問題点を出し合い、今後の総代会運営に役立てようと開催されました。

参加者から事前に集約した総代会運営に関する事前アンケートに対し、日生協会員支援本部法規対策・内部統制室室長宮部好広さんが一つずつ回答するというスタイルをとり、分かりやすい学習会となりました。

特徴的な質問は、○総代会議案書の総代への配布時期、○決算関係書類の監査の4週間保障、○書面議決用紙の事前開票の取り扱い、○総代選出、総代立候補の実態、○総代会の採決方法、○総代会の資格審査、○総代会役員の選出方法などについてでした。

そのあと、ちばコープ、東都生協、日本生協連、中央地連事務局から総代会・総会運営の特徴や教訓・課題等について報告が行われ、最後に、事前アンケートに基づいて、総代会運営に関する問題意識、課題、他生協に聞きたいことなどを交流しました。発言者の包み隠さない正直な報告に緊張がほどけ、有意義な交流・学習会でした。群馬県からはコープぐんま、県連から3名が参加しました。



県民ネットワークが「第4回食の現場探求隊」を開催

～輸入食品の安全性確保の取組みを探求する～

9月18日(金)

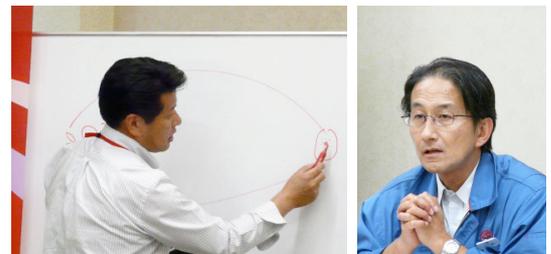
2009年9月18日(金)、ぐんま食の安全・安心県民ネットワーク(会長 峰岸通)と群馬県の協働事業による「第4回食の現場探求隊(バスツアー)」が開催されました。

このバスツアーは、消費者が食品の安全性確保の取組みを知り、日頃、不安に思っていることなどを意見交換し、安心を実感してもらうための取組みです。

今回の「食の現場探求隊」は38名が参加し、築地市場、東京検疫所を見学しました。



築地市場では、県民ネットワーク副会長一場幸雄氏(株式会社フレッセイ)と仲卸の千代田水産株式会社



一場幸雄副会長(中)と山形敏夫副部長(右)から築地市場について説明を聞きました(左)

副部長山形敏夫氏から、築地市場の歴史や現在の市場概要について説明を受け、市場見学を行いました。

築地市場は東京都の中央卸売市場の一つで、水産物、青果物を取り扱っています。水産物については世界最大級の規模を誇っています。見学の後、場内市場と場外市場で各自昼食をとりました。



午後は、東京検疫所の見学を行いました。東京検疫所は厚生労働省の機関の一つであり、輸入食品の監視指導や輸入届出審査などを行っています。全国一、輸入届出件数の多い検疫所です。監視業務や検査業務を行っている職員から、東京検疫所の検査業務や、輸入食品監視業務について説明を受け、質疑と意見交換が行われました。

築地市場の規模や歴史を知り、また場内の活気に触れ有意義な体験となりました。参加者から、「東京検疫所の業務の内容を知り、輸入食品の監視指導などの安全性確保の取組みの理解ができた」などと感想が語られました。

群馬県レジ袋削減推進協議会が設置されました

～レジ袋無料配布の中止について準備が進んでいます～

群馬県では、8月4日にレジ袋削減推進協議会を設置し、来年2月からのレジ袋無料配布の中止について協議を進めています。この協議会は、群馬県地球温暖化防止条例(9月県議会上程、2010年4月施行予定)の温暖化対策の一つとして、レジ袋の削減を目的に設置されたものです。14の事業者、8つの消費者団体、県内全市町村、群馬県が参加し、進めかたや協定書の検討、参加事業者の拡大、事業者・消費者団体・行政の連携などを検討しています。11月に協定書の締結、2010年2月1日から無料配布中止の予定です。協定書は1事業者に対して、8消費者団体、36市町村、群馬県が連名で調印する内容となり、消費者や行政は無料配布を中止する事業者を支持し、県民に理解を広げる役割を持つことになります。

なお、生協関係では、事業者としてコープぐんま、群馬県庁生協、消費者団体として群馬県生協連、群馬県消団連が参加しています。

県連女性協議会が2009年度視察研修会を実施しました ～埼玉県平和資料館と丸木美術館を見学～

9月26日(土)、群馬県生協連女性協議会(林かの子会長)は2009年度「女性協視察研修会」を開催し、原爆の凶「丸木美術館」(埼玉県東松山市)と埼玉県平和資料館(同)を見学しました。

戦後64年が経過し、人々の記憶から戦争の惨禍が忘れ去られようとしていることから、今年は埼玉県平和資料館と丸木美術館を見学し、戦争の悲惨さと平和の尊さを実感しながら、平和のために、私たち一人ひとりがどう生きたら良いのか考える機会にしようと企画しました。参加者は8生協・県連から41名(うち小学生3名、大学生1名、男性5名)でした。関越自動車道を使うと片道1時間足らずのバスの旅とあって、見学に十分な時間をあてることができました。



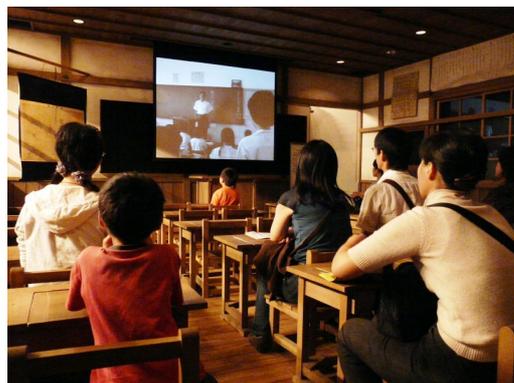
丸木美術館の前で

最初に訪れた丸木美術館では、事務局の岡村さんから、丸木位里・俊夫妻が原爆の凶を描き始めたわけや、何故この地を選んで美術館を建てたのか、その後原爆の凶はもとより水俣病のたたかいや南京大虐殺の絵を描き続けたがその原動力は何だったのかや、70歳を超えてから絵を描き始めた丸木スマ(位里の母)のことなどについて説明を受け、ゆっくり見学をさせていただきました。伊里・俊夫妻の描写はどれも気迫がこもっていて、参加者は誰もが心を揺さぶられたことでしょう。

昼食をとったあと、いよいよ埼玉県平和資料館の見学です。埼玉県平和資料館は、風化しつつある戦争の体験

を次の世代に引き継ぎ平和な社会を発展させようと、平成5年に建てられたそうです。

常設展示場は、県民生活と戦争の関わりを歴史的な推移の中で理解できるように工夫された展示となっています。その脇には、国民学校の教室が再現されていて、修身の授業を見ながら戦時教育の一端を覗くことができました。空襲警報が鳴り、教室の外の防空壕に入ると、光と振動により空襲を疑似体験できるようになっていました。160人が入れる多目的講堂では、平和資料館が独自に制作した2本のアニメ映画が交互に上映されていました。他にも、平和に関する図書が収集された図書閲覧コーナーや、収集された1200点の大小



国民学校の授業を体験

様々な資料の保存を兼ねた特別の収蔵展示室など、とても立派な施設でした。



焼却処分をのがれた、数少ない日米親善の証「青い目の人形」たち

バスの中で感想を出し合いましたが、「戦争の傷跡がたくさんある群馬県にも、こんな平和資料館があったらいいな」という声がたくさん出されると、「9条の会」の活動をしているという参加者から「会のメンバーと各地の平和資料館の視察を行っている。建設要請の具体化に向けて懇談会を持てたらと思うのでその時はご一緒に」と、呼びかけがありました。参加者全員から、それぞれの思いや感想や体験談が語られているうちに、あっという間にバスは終着地に到着してしまいました。

2009年度

お知らせ

第41回群馬県生協大会

2009年10月29日(木) 9時30分開場 10時開始
9時50分までにご入場下さい

前橋テルサ 2Fホール

前橋市本町2-16-1 / TEL027-220-1818

第1部 記念式典

午前10時～午前11時 ■永年勤続表彰 ■組合員・団体表彰

第2部 午前11時15分～12時45分

講演「日本の医療・福祉を考える」

～生協の地域づくり、健康づくり～

緊急論旨 民主党政権になって医療はどう変わるのか
医療生協や医療運動はどう対応すればよいのか

講師 日野秀逸先生 東北大学名誉教授

(日本生協連医療部会副運営委員長・国民医療研究所所長・医学博士)

事前のお申込みが必要です。各所属生協にお申込みください。
ただし、第二部のみ参加は大会の趣旨により原則お断りさせていただきます。

県連便り

県連活動日程

- 10月 6日 生協大会実行委員会③
- 8日 県要請回答説明会
- 13日 災害対策協議会③
- 14日 女性協運営委員会④、群馬県ブランド協会設立準備会議幹事会
- 15日 常務理事会③
- 17日 ～18 群馬県収穫感謝祭
- 20日 群馬県ブランド協会設立準備会議
- 22日 都県連責任者会議
- 27日 第53回群馬県消費者大会
- 29日 第41回群馬県生協大会
- 11月 2日 県連事務局会議、県消団連事務局会議
- 3日 前橋市消費生活展
- 5日 県消団連幹事会

第2回県連理事会報告

- 日時 2009年9月10日(木) 10時00分～
- 場所 群馬県勤労福祉センター第3会議室
- 議事及び内容
- 報告事項
 - 1、一般経過報告
 - 2、特別報告
 - 3、女性協議会・会員生協報告
 - 協議事項
 - 1、消費者政策の充実強化を進める取組み
 - 2、食品の安全を確保する取組み
 - 3、県連災害対策について
 - 4、地球温暖化防止の取組み
 - 5、第41回群馬県生協大会について
 - 6、会員生協の総代会開催状況について
 - 7、医療生協全国連合会設立の件
 - 8、その他